

水肱
系川

山鳥坂ダム

山鳥坂ダム建設予定地

国土交通省
山鳥坂ダム工事事務所

鹿野川ダム

国土交通省四国地方整備局
山鳥坂ダム工事事務所

〒797-1505 愛媛県喜多郡肱川町大字予子林6-4
TEL. 0893(34)3000(代)
FAX. 0893(34)3367
<http://www.skr.mlit.go.jp/yamatosa/>

平成16年6月調整

Nature of
HIJIKAWA

肱川

豊かな清流

安心なくらしのために・・・

“水害”のない流域と 豊かな“清流”をめざして・・・

山鳥坂ダムの概要

肱川は、愛媛県の西南部に位置し、その源は西予市宇和町の鳥坂峠（標高 460m）に発し、宇和盆地を南下したのち、東に向きを変え、野村ダム（昭和57年完成）に至り、黒瀬川に合流して北西に向きを変え、狭隘な山間部を流下し、鹿野川ダム（昭和34年完成）を経て、河辺川、小田川と合流した後、大洲盆地を貫流し、矢落川と合流して伊予灘に注ぐ流域面積 1,210km²、幹川流路延長 103kmに及ぶ愛媛県最大の1級河川です。

河辺川は、その肱川の右支川で、源を笹峠（標高 950m）に発し、山間部を南西に流下し、肱川町中野地先（鹿野川ダム直下流）で肱川に合流する流域面積 67.8km²、幹川流路延長22.5kmの1級河川です。



凡 例	
—	流域界
●	基準地点
●	主要地点
—	既設ダム
—	計画ダム



山鳥坂ダムは、河辺川（愛媛県喜多郡肱川町山鳥坂）に建設される国土交通省直轄の重力式コンクリートダムで、肱川の洪水被害の軽減と、水量の確保（正常流量）及び自然の流れの回復を目指し計画されたものです。

(ダムサイトを下流より望む)



山鳥坂ダム容量配分図

ダム及び貯水諸元		
ダム	型 式	重 力 式 コンクリートダム
	ダム天端標高	EL. 161m
貯水池	集水面積	64.7km ²
	総貯水容量	24,900,000m ³
	有効貯水容量	23,200,000m ³



山鳥坂ダムの経緯

- S57.04 予備調査に着手
- S61.04 実施計画調査に着手
- H04.04 建設事業に着手
- H06.08 「山鳥坂ダムの建設に関する基本計画」の公示
- H13.05 「肱川の治水利水計画等の見直し案」を提示
- H13.11 山鳥坂ダム建設推進協議会(中予地区から回答)
- H14.05 「再構築計画案(第1次案)」を提示
- H14.07 「再構築計画案」を提示
- H15.10 「肱川水系河川整備基本方針」策定
- H16.05 「肱川水系河川整備計画」策定

“水害”のない流域をめざして

河辺川及び肱川の洪水調節

肱川流域は古来より、水害に悩まされてきました。昭和18年、昭和20年の洪水は、死傷者がそれぞれ131名、152名に及ぶ甚大な被害をもたらし、昭和19年からは直轄改修工事に着手し、堤防・ダム・砂防などの工事が行われてきました。

その後、平成7年の出水では、床上浸水768戸、床下浸水429戸と大きな被害を受けたことから、「直轄河川激甚災害対策特別緊急事業」が採択され平成7年度から5年間で、平成7年洪水規模までを防止する事業が行われましたが、肱川流域の今後の発展を考えるとまだまだ十分ではありません。

山鳥坂ダムは、洪水時の流量を低減させ、ダム下流の洪水被害の軽減を図るため、ゲート調節方式を採用し、きめ細かな操作、効率のよい洪水調節を行ってゆきます。

肱川水系河川整備計画では、目標流量(戦後最大洪水規模)を大洲地点で $5,000\text{m}^3/\text{s}$ とし、既設の野村ダムと新たに建設する山鳥坂ダム、鹿野川ダムの改造により $1,100\text{m}^3/\text{s}$ を調節し、河道(河川改修)で $3,900\text{m}^3/\text{s}$ を流すことができるように整備することとなっています。



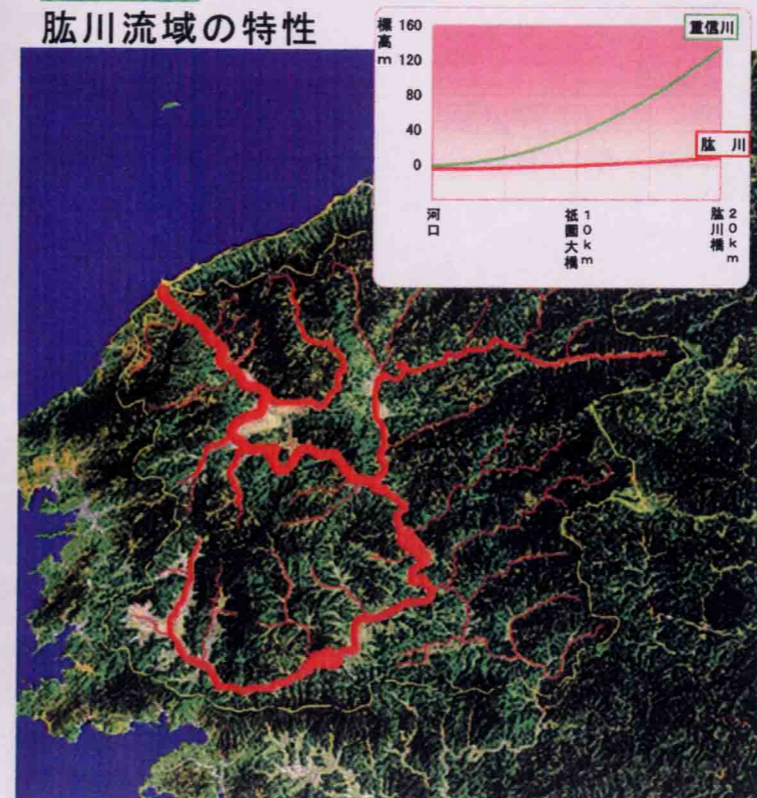
昭和18年7月 洪水により浸水した大洲の町並み

平成7年7月出水



参考

肱川流域の特性



肱川流域は、洪水を受けやすい地域特性を有しています。

- ① 手のひらのような地形になっており、中流部の大洲盆地に川が集まっている
(洪水が集中しやすい地形)
- ② 瀬戸内海側に流れている四国の一級河川に比べ河床勾配が非常に緩やかなこと
(洪水が流れにくい地形)
- ③ 大洲盆地から下流は山が両岸から迫り、河口に行くほど平野の広がりが少ない
(洪水が吐けにくい地形)

豊かな“清流”をめざして

水出良く平水時

流水の正常な機能の維持

肱川は、瀬戸内と太平洋側の中間に位置して比較的雨量も多いため、流量が豊かである河川といえます。しかし、流域内の都市化に伴う地表の増大等により、雨が降ったあとでも土中から少しずつ川に流れ出していた水が減少しています。(→昭和30年代以降の平水時の流量が減少)



現状では、渇水時に $3.3\text{m}^3/\text{s}$ 程度しか流れていない時期もあり、動植物の生息・生育や景観等に必要な水量の確保が必要となります。

山鳥坂ダムのご建設および鹿野川ダム改造による河川環境容量の確保により、大洲地点、山鳥坂ダム直下地点および鹿野川ダム直下地点において、効率的に流水の正常な機能の維持に必要な流量を確保^{※1}します。

なお、野村ダム、鹿野川ダム、山鳥坂ダムの3ダムは統合管理を行います。

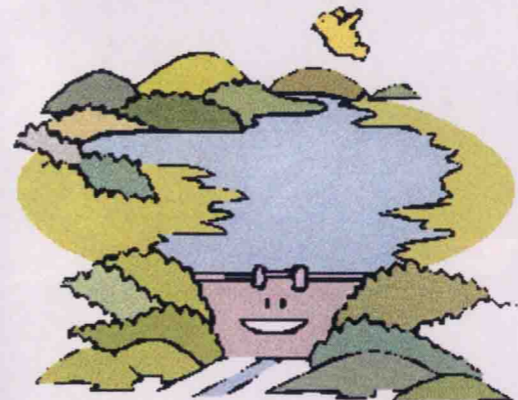
さらに大洲地点の自然流量^{※2}が平水流量程度^{※3}以下となった場合には3ダム全体では貯留せず(貯留制限)に河川に自然な流れの回復を図ります。

- ※1 大洲地点：概ね $6.5\text{m}^3/\text{s}$ (冬期以外)
概ね $5.5\text{m}^3/\text{s}$ (冬期)
- 山鳥坂ダム直下：概ね $0.5\text{m}^3/\text{s}$ (通年)
- 鹿野川ダム直下：概ね $3.2\text{m}^3/\text{s}$ (冬期)
- ※2：ダムがない場合の自然な流量
- ※3：過去40年間の平水流量は、概ね $20\text{m}^3/\text{s}$



山鳥坂ダムの建設について

山鳥坂ダムの建設にあたっては、できるだけ環境に配慮し、必要に応じて、対策を実施します。なお、環境影響評価法に基づく環境影響評価を実施することとしており、ダム建設中および完成後の大気・水環境や動植物・景観等の自然環境への影響などを評価し、必要に応じて適切な対策を講じ、環境の保全に努めていくこととしています。



また、河川の整備やダムの建設が地域に与える社会的影響の緩和や水源地域の生活再建・地域振興について、関係住民等の意向を十分に配慮・尊重し、国、県、関係自治体等と連携をして必要な措置を講ずることとしています。

山鳥坂ダム周辺の主な見どころ

地域の伝統 鎮魂神楽(岩谷)



春の丸山公園



桜やシャクナゲ、ツツジがみものです。

夏の祭典 ドラゴンボート



毎年8月

鹿野川湖で・・・

冬の風物詩 雲海

